



## 市川市

# あんしん住宅助成制度

## 改修工事費の3分の1、10万円限度に助成

### ☆ バリアフリー

トイレの面積拡張、和式 洋式  
便器の工事  
お風呂の低槽、バリアフリー  
手すりの設置 段差の解消  
廊下・出入り口の拡張  
引戸への変更

(介護保険の住宅改修を除く)

### ☆ 防災性の向上

屋根の軽量化(例えば、瓦屋根を鋼板葺きやコロニアムに)  
基礎の補強 壁の補強

### ☆ 省エネ

床・窓・壁等の  
断熱改修  
節水型トイレの設置  
高断熱浴槽設置  
高効率給湯器設置など



### 今年からはじまる 新しい制度です



3つの分野の対象工事から1つ選択

ました。

市川市は、住宅の良質化に資する改修工事を行う場合、その費用の一部を助成します。市との懇談で、補助対象は、自己所有の住宅(集合住宅は専用部)で、対象工事費(案)の3分の1、10万円を限度に助成です。条件は市内施工業者(法人・個人)を利用し、市税の滞納がないこと、などです。

### 受付、年2回 多数の場合抽選

受付時期は、期間を設定し、年2回募集(150件×2回)。応募多数の場合は抽選となります。一回目は7月下旬、2回目は10月下旬を予定。申請は原則本人ですが、施工

### 住民運動が 市政を動かす

業者の代理も可能です。本制度の利用は1回限りで、他の助成制度との併用はできません。詳しくは市のHP、6月の広報の制度案内をご覧ください。

党市議団は、昨年6月市議会に「住モリフォーラム助成」条例案を提出。業者団体も請願を提出し、議会採択まであと一歩と迫りました。その後、市長との懇談で「目的を限定して検討している」ことが明らかになりました。今回の制度に、住民要望が一定反映され、市政を動かす成果となりました。

## 「アベノミクス」に対案 日本共産党の政策

日本共産党は4月24日、「アベノミクス」の危険な暴走を許さず、消費増税を中止し、国民の仕事と所得を増やす、本格的な景気回復を」と題した景気回復のアピールを消費増税を中止し、発表しました。骨子国民の仕事と所得を増やすをお知らせします。

暮らしと経済を直撃する「アベノミクス」の「5本の毒矢」

- 金融緩和「投機とバブル」の危険
- 財政政策「自民党型バラマキの「復活」
- 成長戦略「雇用ルールの弱体化
- 消費税の大増税
- 社会保障の大改悪



国民の所得を増やし、本格的な景気回復の道を：4本柱の対案(日本共産党)

- 第一の柱「賃上げと安定した雇用拡大で働く人の所得を増やす」
  - 第二の柱「消費税の増税を中止する。財源は消費税に頼らない「別の道」で確保」
  - 第三の柱「現役世代も高齢者も安心できる社会保障に」
  - 第四の柱「内需主導の健全な成長をもたらし産業政策に」
- (提言の全文は、日本共産党HPでお読み下さい)



# 都市計画に位置付け、農地保全を求める



農地が減少する市川市。2月市議会の一一般質問で、都市農地保全、ハウス栽培農家への支援を求めました。



(金子) 農家は、「メリットを感じない」と農業振興地域の解除を求める請願を今議会提出し、全会一致で採択された。

今後どのように農地を保全していくのか。

## 「請願採択を重く受け止める」

経済部長は「昭和48年に知事より、大町や大野町の一部が農振地域として指定され、



## 農業振興地域指定除外を求める請願採択

2月市議会に「農業振興地域指定解除を求める請願」が提出され、本会議で全会一致で採択されました。私も建設経済委員会です。強く主張。大町や大野町(一部)が農業振興地域に指定さ

140haが存在している。今議会、請願の採択は重く受け止めている。今後は、農地利用計画の随時見直しも行う、優良な農地保全に取り組んでいく」と答弁しました。

## 「構想や計画を見直す」と答弁

(金子) 都市計画における農地・農業の位置づけを明確にする。そのため、日野市などを参考にまちづくりと農業振興の連動した条例

れています。農業散布やたい肥の匂いで住民から苦情が出たり、除外の厳しさから農業を続けられない要因ともなっています。こうしたメリットがない農振地域の解除を県に求める内容です。

例をつくり、保全を図る必要があるのではないか」と再質問。

経済部長は「平成23年に地域経済の活性化のために市川市産業基本条例を制定した。今後は、農業経営基盤構想や都市農業振興基本計画を見直す中で、農業施策を展開していく」と答弁しました。

## ハウス栽培農家への補助金実施

昨年9月に質問し、今年予算化された「園芸施設リフォーム支援事業」、ピートルハウスの改修や張替に対し、補助金を2分の1支給します。

(金子) 「県事業に上乗せするやり方では対象が少ない」と改善を要求。経済部長は「今後、県と協議していく」と述べました。



日本一の海岸美「北山崎」。大きな津波にも耐え、景観が維持されています(4月17日)

## 岩手県三陸沿岸被災地を視察



被災した田野畑村。「津波の速さ新幹線並み」被災者から当時の状況を聞く(4月17日)



三陸鉄道が開通。久慈駅から田野畑駅まで乗車。その先、宮古までの開通は1年後になるそうです(4月18日)

### お気軽に相談を

仕事くらしの悩み

## 編集後記

4月に党後援会の被災地支援・交流バスツアーに参加。その後、岩手の三陸沿岸地域も視察。がれきは撤去されても、復興のめどはたっていない。飯館村は、除染作業は進まず、村は荒れ放題のことです。被災地に行つて復興が進んでいない現実を知り、怒りがこみ上げてきました。市のあんしん住宅助成制度が実現。住民運動の成果です。市内業者の仕事確保や住宅を長持ちさせる施策です。ぜひ、みなさん利用してみてください。

連絡先 金子貞作 337-6184(夜間)